

ふくおかの経済

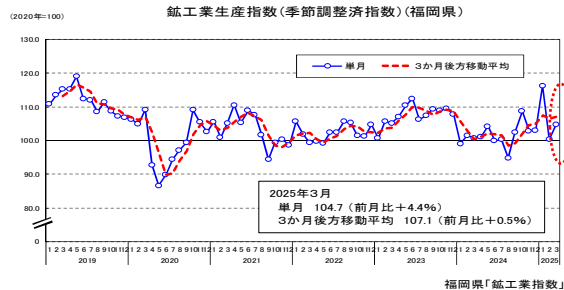
令和7年5月号



生産

持ち直しの動きがみられる。

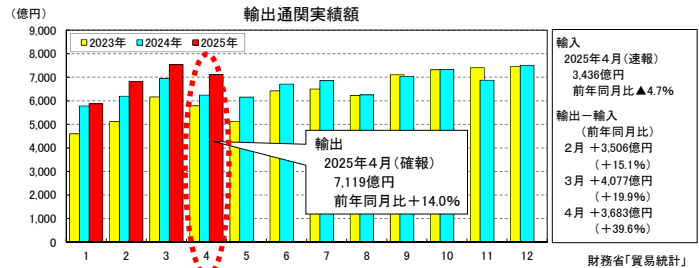
3月の生産指数は、輸送機械工業、汎用・生産用機械工業などが上昇したため、2か月ぶりに前月を上回りました。鉱工業生産指数は、2020年の生産水準を100として、その変化を表しています。



貿易

輸出額は前年同月を上回っている。
輸入額は前年同月を下回っている。

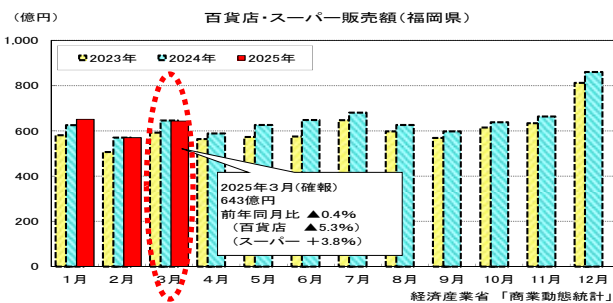
4月の輸出額は前年同月比+14.0%と前年同月を上回りましたが、輸入額は同▲4.7%と前年同月を下回りました。



消費

物価上昇の影響等がみられるものの、緩やかに回復している。

3月の百貨店・スーパー販売額は、42か月ぶりに前年同月を下回りました。



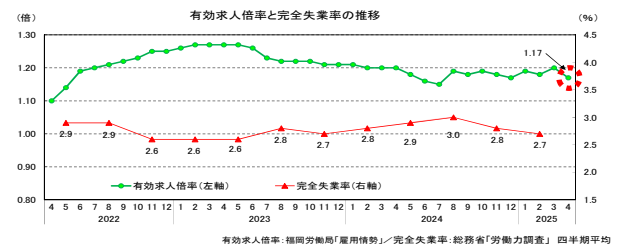
※ 2025年1月以降については、令和3年経済センサス活動調査結果を標準として作成(ベンチマーク更新)している。
2025年1月以降の前年同月比については、適宜更新した値と比較しているため、過去の公表値(適宜更新していない値)を用いて算出した値とは一致しない。

雇用

雇用情勢は、改善している。

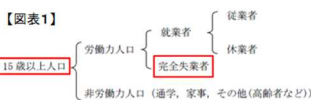
4月の有効求人倍率は1.17倍で、前月を0.03ポイント下回りました。

「仕事を探している人の数」に対する「企業の求人数」の割合が有効求人倍率です。



今月のピックアップ 労働力調査について ~完全失業率~

- 労働力調査は、総務省が実施する基幹統計調査で、日本国内の就業・不就業の状態を毎月調査・公表しています。主に、完全失業率等景気判断や雇用対策等の基礎資料として利用されています。
- 完全失業率は労働力人口(15歳以上の働く意欲がある者)のうち、完全失業者(失業中で求職活動している者)の割合で、景気動向等を判断する重要な指標の1つです(図表1)。完全失業率の長期的動向を見ると、2024年は年度平均で2.5%であり、バブル期の1988年とほぼ同水準の低さとなっています(図表2)。
- 集計結果は、完全失業率以外にも、産業別(図表3)や年齢階級別(図表4)の就業者数等が公表されています。毎月公表されるため、雇用情勢を把握するための即時性のある指標として使用されるとともに、時系列データにより長期的な動向を分析することも可能です。
- ただし、全国値を算出する目的で標本数が少なく設計されている等の理由から、都道府県別の集計値を利用する際は、全国値ほどの精度が確保できない点に留意が必要です。



【図表3】 (単位:千人)

主な産業別就業者数※	前年同月増減(千人)
合計	6,770 44
農業、林業	179 9
建設業	474 △8
製造業	1,016 6
情報通信業	285 △5
運輸業、郵便業	349 △12
卸売業、小売業	1,017 0
金融業、保険業	158 1
不動産業、物品賃貸業	145 13
学術研究、専門・技術サービス業	264 6
宿泊業、飲食サービス業	410 8
生活関連サービス業、娯楽業	228 4
教育、学習支援業	355 20
医療、福祉	937 7
サービス業(他に分類されないもの)	488 14
公務	253 △12

※分類不能の産業(不詳等)の数値が公表されていないため、内訳と合計値が一致しない。

【図表4】 (単位:千人)

年齢階級別就業者数	前年同月増減
合計	6,770 44
15~64歳	5,821 21
15~24歳	544 5
25~34歳	1,140 24
35~44歳	1,247 △21
45~54歳	1,605 △14
55~64歳	1,285 26
65歳以上	949 23